

夫婦で決めた後悔しない不妊治療のかたち～無精子症で不妊治療を終結した症例より～

非閉塞性無精子症の顕微鏡下精子採取術の精子採取率は 3 割程度といわれており、精子が採取できなかった場合、不妊治療は突然の終結を迎えます。

今回無精子症と診断され、精子が採取できずに、不妊治療を終結した症例についての看護に対してポスター発表しました。

治療の終結に立ち会う看護師は、患者の心に寄り添いながら、治療を受けていたことが夫婦にとって必要だったと思えるように支援すること、そして、夫婦の行き方や価値観を尊重した上で、その人らしい選択を応援する姿勢が重要です。

今後も無精子症や不妊治療終結を迎える夫婦にとって、後悔のない支援をしていきたいと思えます。